



世帯数 5,970戸
人口 14,122人
(令和2.1.1現在)

第42回寿地区文化祭

晴れ晴れとした空のもと、今年で42回となる寿地区文化祭が開催されました。今年度は寿公民館トイレ改修工事に伴い、会場及び内容が縮小され、寿体育館のみでの開催となりました。

◆作品展示

体育館の南側には寿地区12町会、登録サークル等による作品が展示されました。



精巧なものや、工夫を凝らして思い思いに作られた作品がずらりと並び、訪れた方々は興味深そうに作品を観賞していました。さくらんぼクラブによる景品が獲得できるゲームコーナーも設けられ、大勢の方が参加し好評でした。

◆ステージ発表

深沢実行委員長の開始あいさつの後、寿小学校の4年生有志が寿公民館前に広がってはねこおどりを披露しました。

子どもたちの力強い見事な演舞に、参加者は熱心にカメラを向けていました。

体育館のステージでは、公民館登録サークルや保育園、小中学校を含めた16団体が日頃の活動、練習の成果を発揮しました。老若男女問わず、一丸となつて歌やダンスなどを披露する姿に、盛大な拍手を送りました。



◆松本一本ねぎ販売

寿小学校4年1組は困っている方に寄付をしたい、本を買いたい、という思いから松本一本ねぎを文化祭で販売す

ることを決め、クラス一丸となって



大切に育ててきたそうです。販売に向けて看板やポスター、チラシ、着ぐるみ作り等行い開店をとっても楽しみにしていたそうです。

当日は、ねぎの着ぐるみ「まっちゃん」が会場内を練り歩いてアピールをしたり試食が用意されたり工夫していました。「1袋100円です」と元氣よく呼びかけ、次々と売れていき1袋2本入り200袋以上のねぎは11時には無事完売し、児童たちの笑顔であふれていました。

「まっちゃんを着たり、移動販売したりできて楽しかった」「計画通り全部売れてよかった」と児童から感想をいただきました。

◆もちつきとタピオカ

公民館前で寿子ども会からタピオカジュースの販売とくじ引きが行われました。毎月開催される子ども会の中で各地区より集まった6年生の児童が計画を立て、役割を決め準備を進めてきたそうです。開店から子どもたちの列は途切れることなく大盛況。販

売をする児童の手際も良く、1時間もしないうちにタピオカジュースとくじ引きは売り切れ、ジュースのみの販売になりました。完売後も訪れる方が多く、大変な人気でした。育成会は、福祉ひろばの前で必要なゴマもちやもち米を販売し、もちつきを行いました。訪れた参加者は、力を込めてもちめがけて杵を振り下ろしていました。

◆屋台村、木工教室

体育館の前では、寿体育協会が焼きそば、わたあめを販売、豚汁を無料配布しました。寒空の下、購入した参加者は、体が温まって嬉しいと舌鼓を打ちました。

寿さと山クラブによる木工教室やバームクーヘン作りでは、子どもたちが慎重にバームクーヘンを回転させて焼きました。出来上がった焼ききたのバームクーヘンをおいしそうに頬張っていました。

◆かかし祭り

すっかり秋の風物詩となった「かかし祭り」は13回目を迎えました。12町会から18作品、ここにこルーム、寿児童センター・寿放課後児童クラブから計20作品の作品展がありました。昔ながらのものから、流行りのキャラクター

やスポーツなどバラエティに富んだ力作揃いの作品が寿公民館前の道路沿いにずらりと展示され、行き交う人々の目を惹きつけてくれました。表彰式では全ての作品に表彰状とかかし祭りにご協力いただいたスポンサーの皆様より、お米やミカン等が贈られました。



【館報編集委員 浜 清美】

寿公民館のトイレが新しくなりました!

昨年から行われていたトイレ改修工事が12月13日に完了しました。工事期間中の住民の皆様のご理解とご協力に感謝を申し上げます。

トイレは内装や便器の機能が新しくなりました。暖房、照明、換気等の空調設備が自動でつき、洋式は、男女ともに自動洗浄等がついた多機能トイレになりました。多目的トイレにはおむつ替え台があります。寿公民館にお越しの際は、気軽にご利用ください。

わがまち正月



まゆ玉 しめ縄作り教室

12月21日(土)、竹湊町会で、まゆ玉・しめ縄作り教室が開催されました。

今年、回覧板の他、「あんしんメール」によるお知らせもあり、小学生からその父兄の方、「しめ縄は、買った方が早いかなあ」という方、多くの住民が集まりました。

初めに河西町会長から、新年を楽しく迎えてくださいとの趣旨でご挨拶をいただき、講師の先生方(皆さん町会の方)の紹介がありました。



今日の「まゆ玉・しめ縄作り教室」に向けては、町会の公民館、育成会、小中学校PTAの皆さんで実行委員会

を立ち上げ、打ち合わせ、準備を重ねて実施の運びとなりました。



今日のしめ縄作りは、ゴボウをとかく5本作り、時間があれば「わじめ」を作るまでと説明を受け、先生を囲んで始まりました。

①藁束から、いい藁を21本くらい選び、それを5セット作る。

②21本を3つに分け、うち2つを編んでいきます。(先生方は「綱」ではなく「編む」という言い方をされていました。)

藁を掌で転がしていくのですが、うまくいきません。大人も子どもも四苦八苦でうまくいきません。先生が手を取っ

て教えてくださいますが、どうしてもうまくできず、先生にお手伝いを願うこととなってしまふ方が…。図らずも世代間交流、ご近所交流となりました。



また、編みながら、「いわれ」を史談会の方から話していただきました。

曰く、正月の神様をお迎えるために藁で作った飾り物

を飾るとのこと。実は、ゴボウは再生のシンボルであるへびを模っている飾りだそう

です。山にこもった神様をお迎えして、正月明けには三九郎の火祭りで山に帰っていたのだという、再生復活を願う奥深いお話を伺いました。

さあ、みなさん今日は飾りができました。

再生のシンボルだよ。

【館報編集委員 上平 貴明】

寿地区史跡めぐり

10月26日(土)に寿地区史跡めぐりが行われました。当日は天気も良く、大人46名、子ども23名の方々が参加しました。寿史談会顧問青木先生、寿史談会会長御子柴先生を講師としてお願いし、竹湊地区にある竹湊諏訪社、馬頭観世音、ミシヤクジ神、地藏堂、宮形道祖神、生蓮寺を回るコースで歴史を学びました。



普段何気なく通り過ぎていく街並みですが、歴史の説明を聞くことで新たな発見ができ、皆さんで驚きと感動を覚えました。

帰り際には小学生参加者に「史跡めぐり認定証」をお渡ししました。良き思い出と記念になったと思います。来年も予定している史跡めぐりにぜひご参加ください。

【寿子ども会育成会

教養部長 高田 直文】

寿地区避難所設置運営訓練

11月3日(日)に、寿地区12町会約120名・市担当職員・消防団等で、寿体育館にて避難所設置運営訓練が初めて行われました。



12町会が各班に分かれ、避難者の受け入れ名簿の整理・台帳の作成、段ボールベッド・簡易トイレの組み立て、発電機・投光器の取り扱い、非常食の提供、毛布・敷き段ボールの配布等を行いました。

近年頻発する地震や集中豪雨などの「天災」にそなえて日頃の訓練が大切。「減災」被害の少ない寿にするために、本日の経験を今後の参考にしたいと結びました。

「いざ」という時には、ご近所・地域のみなが力と知恵を出し合うことが大切だと思います。

【館報編集委員 石田 典子】